

イカナゴ類夏眠場調査の結果について

(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

イカナゴ類の夏眠場と想定される下図4海域について、空釣り及びビームトロールで分布状況を調査しましたので、その結果をお知らせします。

むつ市大畑町沖及び佐井村沖では0-6個体と、まとまった採捕はありませんでした（下図）。平成8年に佐井沖で行った空釣り調査では300個体、平成13年に大畑沖で行ったトロール調査では340個体の採捕があったことから、分布は極めて少ない状況であると考えられました。一方、東通村尻労沖では合計59個体と、まとまった採捕が認められました。そのうち48個体は、水深45-50 mで採捕されたことから、この海域が夏眠場である可能性が示唆されました。また、耳石観察による年齢査定を行った結果、むつ市大畑町沖は1-2歳魚（182-214 mm TL）、東通村尻労沖は全て当歳魚（83-122 mm TL）でした。

川崎（2016）はレジームシフトについて2013年にハイエスタス期（水温横這い期）が終了してライズ期（水温上昇期）に転換したことを指摘しており、過去、温暖期にイカナゴ類の資源量が多かったことから、今後、海域によってはイカナゴ類が資源増加に転じる可能性があります。当所では今後も資源動向のモニタリングを継続するとともに、漁業関係団体の皆様に於かれましては引き続き本種資源を適切に管理いただきますようよろしくお願いいたします。（担当：資源管理部）

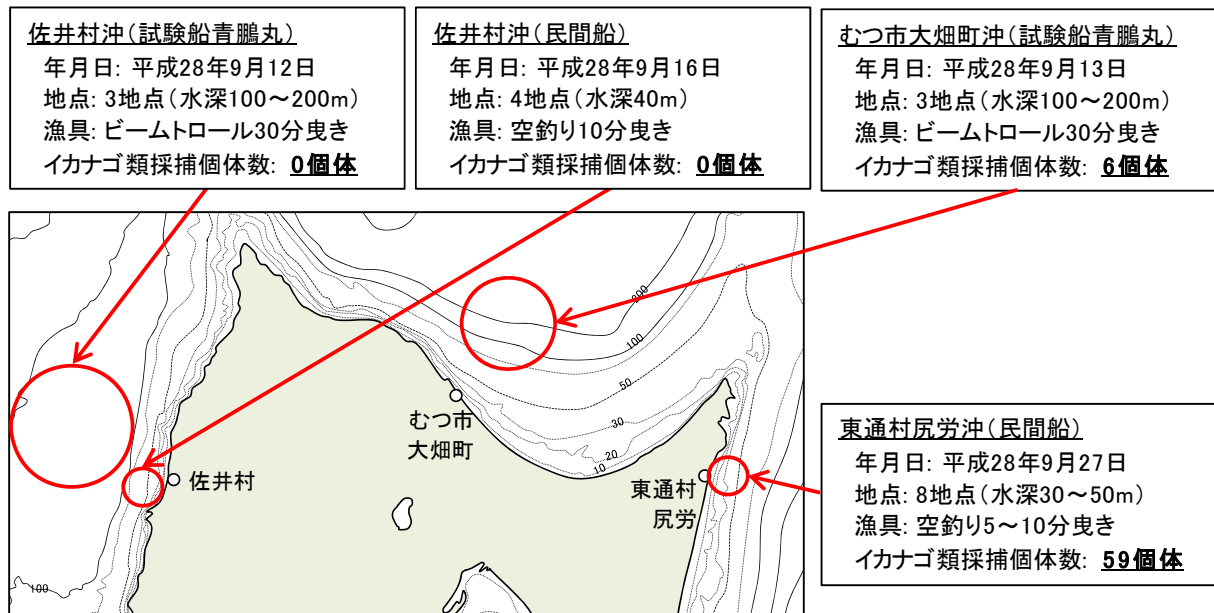


図. イカナゴ類夏眠場調査の結果